

4. 講義科目において、ブレインストーミングの手法を活用したアクティブラーニングを試行する。口頭の発言では難しい意見交換やアイデアの発散・収束を促すため、付箋紙を用いた方略を用いる。

石井 和平（社会情報学部）

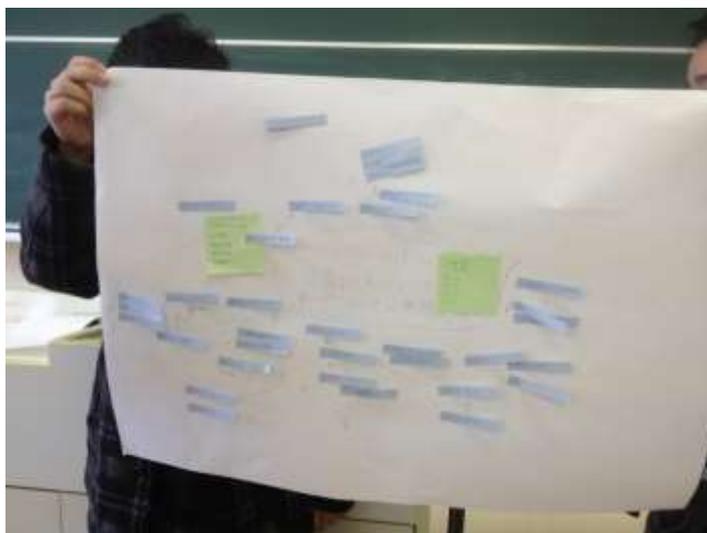
－グループ活動における付箋紙を用いた教育効果－

1. 取組のねらい

現在、担当科目である「情報社会論」では、ささやかながらもアクティブ・ラーニングの講義スタイルを取り入れてみた。講義では、グループ学習を前提に、資料の丁寧な読解作業を中心に、資料の書き手が主張する情報化の新しい流れについて理解してもらうことを課題とした。そしてその知識をもとに、情報化社会の新しい流れに添えるよう、学生自らが新奇なアイデアや実践可能なプロジェクトを立案できる力を持たせることを当該科目のねらいにした。しかしながら、学生にとっては、口頭で自由に発言し、意見交換を行い、一旦、展開した議論を再び収束させる作業は難しい。そこで学生には、付箋紙(ポストイット)にアイデアを自由に書き出してもらい、ブレインストーミングを積極的に用いる方法を採用し、議論を進めることにした。

2. 手法

上記のように、付箋紙を用いて議論を発散させ、また議論を収束させる手法は月並みではあるが、ゼミ形式ではなく一般の講義形式において用いることはあまりない。グループ学習のスタイルを適用することで、単調になりがちな講義に対して学生が主体的に学ぶ機会を提供することができるだろう。さらに付箋紙を用いることで、口頭による発言では難しい自由な意見交換やアイデアの発散・導出とそのアイデアを一つに収斂させ纏めていくような学習プロセスを体験させることができるはずである。またその過程で、会議運営などにおいて必要になるファシリテーション技術を学ぶことも可能である。しかしながら、一般の講義形式の中で付箋紙を導入することには講義毎に固有な問題生じることが予期できるため、段階的な導入から始めるべきである。実際、今回の講義でも、すべてのコマで付箋紙を用いたグループ学習が可能であったわけではない。



3. 実施しての感想

情報社会論を履修した学生は、グループ学習自体を予期していなかったこともあり、あまり積極的な反応を示さなかった。従って、板書を含む通常の講義形式と（アクティブ・ラーニングの一形態としての）グループ学習とどちらが好みかを履修学生に聞いたところ、全員が通常の講義形式の方に手を挙げた。付箋紙の導入以前に、そもそもグループ学習に馴染みがない学生が多いという結果である。

だが、グループ学習自体に抵抗を示す学生であるが、付箋紙を導入することに対してはあまり問題がなかったのも事実である。付箋紙に何かを書き、模造紙やホワイトボードに張りつけ、同じカテゴリーに属する付箋紙同士で並べ直すというプロセスに対しては問題なく適応した。

しかしながら他の課題も見つかった。「新規なアイデアを出すためのツール」として付箋紙を用いたところ、質はともかく量においてもアイデアを出しつづけることが難しいのである。付箋紙の量が増えない以上、アイデアの質も高まらない。従って、アイデア出しという基本的な使い方ではなく、別の付箋紙の使い方を講義では取り入れることにした。それは、手持ちのスマートフォンや携帯電話を使って調べたことを付箋紙に書き留めていき、KJ 法のようにまとめていくための「資料収集と整理のツール」としての付箋紙の活用である。新しいアイデアの導出のためではなく、既存の知識の整理に付箋紙を用い、発表の準備に備えるという点では、十分活用できたのではないかと考える。通常の一般科目でも、付箋紙と模造紙あるいはホワイトボードを利用した講義は可能であり、同等以上の教育効果は得ることができるのではないだろうか。履修者数の問題だけではなく、グループ学習に向き不向きな科目というのは確かにあるが、工夫次第ではカバーできる問題のように感じた次第である。なお、座席に座り模造紙に付箋紙を張っていく作業とは別に、最初から学生に立ってもらい、ホワイトボードに付箋紙を貼付けていくように指示してみたこともある。その場合は、座っている時より集中度が高かったように思われる。机や椅子を使わないというのも、やや原始的な方法ではあるが、学生の集中度や参加度を高めるために効果があるのではないかと推察する。

4. 今後の課題

学生は、自ら調べ、その知識をグループで共有し、新しいアイデアを出し合うことを好んでいないため、グループ学習それ自体の経験を増やし、グループ学習に慣れてもらうことが先決のようなのである。その上で、アイデアの発散・収束というプロセスを用い、最後に発表まで行わせるような、よりアクティブな講義形式を取れるよう努力したいと考えている。同一科目における付箋紙の活用方法に関してはある程度の実績を得ることができた。今後は、付箋紙を用いた授業を段階的に増やしていき、講義毎の異同について考えていくつもりである。また、グループ学習に抵抗を持つ学生に対して、付箋紙の効果的な活用方法を開発し、より魅力のある講義にすることが課題である。なお、付箋紙を用いた教育方法の満足度に関しては、普段の講義状況の把握と学生アンケートの結果から推測したいと考えている。以上。